

< 提言内容 >

- (1) 'クリーンセンター建て替え'を全ての市民が認識し、担う課題として位置づける。
- (2) '運営協議会'を中心とした現クリーンセンター建設から今日に至る経験蓄積、そして本市における廃棄物(ごみ)対策の進展と成果を継承し、将来に活かす。
- (3) '地球温暖化による環境負荷の軽減'をはじめ、現在の時代潮流である環境問題に積極的に対応する。
- (4) 'まちに溶け込む次世代型市民施設'としてイメージ転換を図り、周辺地域のまちづくりの核とする。
- (5) '現クリーンセンター'から'(仮称)新武蔵野クリーンセンター'への移行を円滑に行うため、行政によって整備用地を適切に決定し、'施設づくり'・'まちづくり'の議論に十分な時間とコストをかける。

< 基本的な考え方 >

全市的な取り組みに対する基本方針

新施設の在り方と求められる条件

周辺環境・地球環境への配慮

整備用地

施設周辺整備の考え方

市役所北エリアの配置計画

新施設の配置は周囲の影響を考慮して、都市計画で定められた範囲で、北側に寄らない現施設の東側に配置します。また、残りのエリアについて、野球場、テニスコート、緑町コミュニティセンター、緑を含めた現状の配置を前提としながら、新施設とこれら施設が融合し、エリア全体が緑と一体化した景観と、環境負荷の軽減を図った施設整備を検討してまいります。

将来のごみ処理のあり方

今後の整備方針

< 市・委員会・協議会の検討事項 >

【市】

広報活動

ごみ減量・資源化

将来のごみ処理の在り方

【委員会】

施設の基本仕様(施設規模・公害防止基準・処理設備・煙突高さ・発電効率等)

環境影響調査計画

概算事業費・事業手法

【協議会】

1. 施設・周辺整備の考え方

- (1) 施設整備
(プラスの機能による付加価値の創出)
- (2) エリア整備
- (3) 周辺整備

2. 新施設の運営について

- (1) 生活環境影響調査
- (2) 運営協議会方式の継続、発展

< 協議会の基本コンセプトとなる材料 >

'まちに溶け込む次世代型市民施設'としてイメージ転換を図り、周辺地域のまちづくりの核とする。

(策定委員会との共通テーマ)

【(仮称)新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会より】

'(仮称)新武蔵野クリーンセンター'は、環境面、安全面、効率面、そして周辺地域のまちづくり面などについて、そのいずれをも保障しつつ、現クリーンセンターよりさらに市民に親しまれ、まちと共に在り、プラスを創造する高次な施設であるべきとする。

(具体的な検討事項)

- 1. 施設・周辺整備の考え方
 - (1) 施設整備(プラスの機能による付加価値の創出)
 - (2) エリア整備
 - (3) 周辺のまちづくり
- 2. 新施設の運営について
 - (1) 生活環境影響調査による事前(建設前)の安全性の確認
 - (2) 運営協議会方式の継続、発展

環境共生・生活文化創造都市むさしの

【武蔵野市都市マスタープランより】

市民一人一人が限られた地球資源を自覚し、環境と共生する循環型社会を創造するとともに、自然、歴史、芸術を大切にし、豊かな住環境のもとで、生活文化が育まれる都市を構築する。

【具体的な方針】環境にやさしいまちづくりを進める

- ・環境にやさしいまちづくりを進める
- ・ごみ減量に積極的に取り組み

都市施設としての位置づけ【都市計画法第11条より】

都市計画区域については、都市計画に、次に掲げる施設で必要なものを定めるものとする。この場合において、特に必要があるときは、当該都市計画区域外においても、これらの施設を定めることができる。

- 三 水道、電気供給施設、ガス供給施設、下水道、汚物処理場、ごみ焼却場その他の供給施設又は処理施設

【広島市中工場のコンセプト/建築家 谷口吉生】

平和記念公園には丹下健三先生の「広島ピースセンター」がありますが、そこから伸びる吉島通りを海の方に延長したところにこの敷地があります。つまり広島重要な都市軸に乗っている場所で、都市から海へ続く景観の境に敷地があります。そこで私は吉島通りを延長して、海へ通り抜ける空間を敷地に作ろうと思いました。このような発想は、設計のかなり初期の段階から考えていたものでした。

設計を始めるときには、私は同類の施設を可能な限り多く見て回るように心がけています。-(中略)- そこで他の施設を見てみると、外観をいろいろデザインで工夫をして、ゴミ焼却施設には見えないように隠している建築が多くありました。しかし私はこれも現代の都市に必要な施設のひとつとして、外部は意図的に工場をそのまま表現し、内部に何か公共的な空間をつくり、都市施設としての価値を高めようと思いました。

< 協議会の基本コンセプト(案) >

【メインテーマ】

'まちに溶け込む次世代型市民施設'としてイメージ転換を図り、周辺地域のまちづくりの核とする。(策定委員会との共通テーマ)

'(仮称)新武蔵野クリーンセンター'は、環境面、安全面、効率面、そして周辺地域のまちづくり面などについて、そのいずれをも保障しつつ、現クリーンセンターよりさらに市民に親しまれ、まちと共に在り、プラスを創造する高次な施設であるべきとする。

周辺地域のまちづくりは、環境と共生する循環型社会を創造する都市を構築する。

【個別テーマ】

- 1. 施設・周辺整備の考え方
 - (1) 施設整備
 - ・環境をテーマとした施設づくりを目指す。
 - ・市民に親しまれ、まちと共に在り、プラスを創造する高次な施設づくり
 - ・地域に開かれた施設づくりを目指す。都市施設としての価値を高める。
 - (2) エリア整備
 - ・新施設、野球場、テニスコート、緑町コミュニティセンターが融合し、周辺地域のまちづくりの核となることを目指す。
 - ・積極的な緑化や自然エネルギー利用、明るく開放的な施設づくり、ユニバーサルデザインの採用など、市民に親しまれ、環境にやさしいまちづくりを実現する。
 - (3) 周辺のまちづくり
 - ・市役所北エリアを中心に、市役所、総合体育館、NTT研究所、住宅団地、周辺住宅地を含め、自然環境を共生したまちを形成する。
- 2. 安全で安心な施設づくりと運営
 - ・新施設は安全で安定的なごみ処理施設を実現する。
 - ・生活環境への影響をださないように、生活環境影響調査を実施し、将来の予想を行い、安全性を確認する。
 - ・稼動後も安全な施設であるため、運営協議会方式を継続、発展させる。

< 委員会におけるアウトプット >

施設・周辺整備素案(案)

- 1. 施設・周辺整備の考え方

| | | |
|------|-------|------|
| 施設整備 | エリア整備 | 周辺整備 |
|------|-------|------|
- 2. 安全で安心な施設づくりと運営
 - 生活環境影響調査計画(案)
 - 新運営協議会方式